

5. 伊勢湾再生に向けた共通基盤

以上、「良好な水質・底質の保全」「多様な自然環境の保全と生物多様性の確保」「伊勢湾文化の保存・継承・創造」「持続可能な利用と安全の確保」に関する基本的な取組みを示しましたが、これら取組みを具体的に展開していくために、私たちの伊勢湾への積極的な関わりが望まれています。

しかし現状では、まだまだ伊勢湾に関する科学的知見が整っていない、伊勢湾の現状はどのようなになっているのか分からない、どこで誰とどのように伊勢湾と関わっていけばよいか分からないなど、さまざまな課題がたくさんあります。

このような現状を踏まえ、「調査・研究」「参加・実践」「情報・交流」の3項目に整理して、今後、私たちの伊勢湾への関わり方を検討しました。

5-1. 調査・研究

(視点)

伊勢湾には、伊勢湾そのものの大きさ、さらに集水域の広さなどもあって、水循環、物質循環のメカニズムの定量的な把握など未解明な点が多く、またその現況を総合的に把握することはこれまでも試みられてはいるものの、十全でないのが現状です。

伊勢湾再生に向けては、科学的なアプローチによつて的確に伊勢湾の環境を把握するとともに、未解明な点に関する調査・研究及び環境負荷の低減に資する技術開発を一層進め、それらの成果を具体的に海域・流域での具体的取組みに反映させていくことが必要であり、こうした積み重ねが、伊勢湾全体の再生に結びつくと考えます。

このため、伊勢湾及び伊勢湾流域の現状把握と既存の取組みに対する再評価を行うとともに、モニタリングの継続、モデル的施策の推進と予見的な調査・研究、さらに技術開発等の取組みを進めます。

(取組みの方向)

○観測の推進と体系的な調査研究の推進

海域においては流域を、流域においては海域を常に視野に入れながら、今後は、調査項目、調査頻度、調査体制等の見直しを検討して、現況の観測、体系的な調査研究を進めます。

また、科学技術論的アプローチのみならず、伊勢湾再生に資する制度論的アプローチに係る調査研究を進めます。

(取組み例)

観測の推進

- 水循環に関する総合調査
- 多種多様な生物生態調査
- 土砂、底質に関する総合的なモニタリング
- 微量化学物質のモニタリング
- 伊勢湾の水環境モニタリング指標の研究

体系的な調査研究の推進

- 水質等の調査、観測等の総合的な調査体制のあり方についての検討
- 自然浄化機能の評価技術の開発
- 伊勢湾への負荷流入機構の調査研究
- 底泥、浚渫土砂等の処理技術、有効利用技術の開発
- 貧酸素化に伴う生態系の変化の解明
- 観測機器の研究

- 環境にやさしい海岸・河川等での構造物、工法の調査・研究
- 産業系の環境負荷を低減する要素技術の研究
- 生活系の環境負荷を低減する要素技術の研究
- 土地系の環境負荷を低減する要素技術の研究
- 伊勢湾再生評価システム（仮）の構築

○調査研究ネットワークの構築

これまでに、さまざまな人々によって蓄積されてきた観測結果、調査研究の成果の共有化・ネットワーク化を進めます。

（取組み例）

住民、試験研究機関、行政等とのネットワークづくり

- 住民参加による観測・調査に係るマニュアルづくり
- 住民参加による観測・調査の促進
- 国、地方、民間等の試験研究機関の連携強化
- 伊勢湾総合データベースの作成
- 伊勢湾学会（仮称）の設置検討
- 伊勢湾総合研究機構（仮称）の設置検討

5-2. 参加・実践

（視点）

伊勢湾の環境悪化が懸念されているにも関わらず、私たちが深刻に受け止めていないのは、伊勢湾を遠い存在であるかのように錯覚し、私たちの活動が伊勢湾に対してどのような負荷を与えているかについて関心を持ってこなかったことに原因のひとつがあると考えられます。私たちは、自然の中で生かされている存在であるという自覚を持って、主体的に伊勢湾と関わっていくことが望まれています。

このため、今後は、伊勢湾を身近に感じ、公共財として保全していかなければならないという意識を高め、更には伊勢湾を中心に据えて自然と人間が「共生」関係にある社会の形成を目指して、伊勢湾への環境保全に向けた多様な主体の参加・実践を促進します。

（取組みの方向）

○環境負荷の少ない暮らしや事業活動等の展開

私たちの先人が体得してきた「知恵」を再認識し、環境に負荷の少ない暮らしや事業活動を促進するとともに、伊勢湾をより身近な環境として受け止められるように、伊勢湾の環境と直に触れ合える機会を増やす取組みを進めます。

（取組み例）

環境負荷の少ない暮らしづくりの促進

- 伊勢湾の利活用マナーの醸成
- 環境に配慮した消費行動の実践
- みどりの購入、ナショナルトラスト等の新しい環境保全の仕組みの検討

環境負荷の少ない事業活動の促進

- ISO14000 シリーズの取得促進

- 環境に配慮した事業活動の実践
- 住民、NPO等による保全活動の促進
- 住民参加の環境美化運動の促進
 - 住民参加型環境調査の実施
 - 環境ボランティアの育成
 - 地元住民における環境ガイドの育成
 - 行政とのパートナーシップ構築

エコツーリズムの普及

- 伊勢湾へ赴く活動（マリンツアー）の実施
- 森へ赴く活動（グリーンツアー）の実施

○伊勢湾再生への取組みのネットワーク構築

関係行政機関相互の連携、行政・事業者・住民等の多様な主体間の連携、河川の上下流間の連携強化等を進め、伊勢湾再生に向けての総合的なネットワークの構築を図ります。

（取組み例）

行政の連携の促進

- 伊勢湾総合対策協議会の運営充実
- 国と地方公共団体の連携組織の設置検討

多様な主体の参画とネットワーク化の構築

- さまざまな環境保全活動を支援する仕組みづくり
- さまざまな環境保全活動をネットワーク化する仕組みづくり

伊勢湾流域の広域的なネットワーク化の推進

- 流域別の流域圏づくりのネットワーク化

○世代を超えた意識の共有

お年寄りから子どもまで誰でも伊勢湾の環境保全に向けた参加・実践ができ、次世代にも伊勢湾の環境保全活動が継承されるような啓発活動の展開、環境学習機会の充実を図ります。

（取組み例）

環境学習等の推進

- 伊勢湾をフィールドとした体験学習の実践
- 多様な情報媒体を活用した、伊勢湾関連情報の分かりやすい提供
- 伊勢湾の環境学習の拠点づくり

世代を超えた取組みの促進

- 伊勢湾の環境保全活動に関連する指導者の育成
- 伊勢湾親子教室の開催など

5-3. 情報・交流

（視点）

伊勢湾においては、これまでさまざまな調査・研究が行われ、ある程度の伊勢湾及び伊勢湾流域の環境に関する知見の蓄積はあります。しかし、それらを、私たちは全体像として捉えるには難しい状況です。また、インターネットをはじめとするさまざまな情報媒体を通じて、私たちの日常生活にさまざまな情報が飛び交っていますが、これらの媒体で気軽に伊勢湾に関する総合的な情報を入手する

ことはできない状況にあります。

このため、これからは、まずは伊勢湾流域に暮らす私たちが、伊勢湾再生に向けた取組みの共有化と広域的なネットワーク化を図るため、また、伊勢湾と同様な問題を抱える国内外の地域との連携・交流を図るため、伊勢湾に関する各種の情報提供、交流に関する取組みを図ります。

（取組みの方向）

○伊勢湾に関する基礎的な情報の共有

伊勢湾再生との関わりについて自らの責任をもって主体的に判断・行動できるようにするため、伊勢湾に関する基礎的な環境情報の量的・質的充実を図るとともに、情報の公開性を高めます。

（取組み例）

基礎的な環境情報の充実

- 環境情報の量的・質的充実とその提供

行政施策に関する情報共有の促進

- 行政施策の早期段階での情報公開
- 進捗状況や施策の効果に関する情報公開

住民、企業等が持つ情報の共有の促進

- 身近な環境情報の収集・共有化

○調査・研究等専門的な情報の活用

現在、専門的な情報は、個別の組織、フォーマットに基づき収集・管理されており、多様な主体がそれぞれの目的に応じた利活用がしにくい状況にあることから、今後は、規格の統一、情報加工の容易性の向上に向けた取組みを図ります。

（取組み例）

伊勢湾に関する情報ネットワークの構築

- 調査研究情報データベース化
- 調査研究情報のデジタル化

○わかりやすく活用しやすい情報の伝達

伊勢湾に関する情報は多岐にわたり、専門的な知識をもってしてもその全体像が理解しにくい側面があります。そのため、今後は、情報の質の向上を目指し、誰でも自らが責任をもって判断・行動できるように、わかりやすく活用しやすい情報の伝達に関する取組みを進めます。

（取組み例）

わかりやすい環境情報の提示

- わかりやすい環境情報の提示

情報へのアクセス利便性の向上

- 総合的なインフォメーション機能の充実

○多様な主体の人的交流の充実

メディア、交流拠点を活用して、伊勢湾に関係するさまざまな人や情報の交流の機会が増大する取組みを進めます。

(取組み例)

人と情報の交流の促進

- 個人や活動グループの交流支援
- 環境調査等への市民参加促進

メディアとの連携による交流の促進

- 双方向メディアの活用促進
- 市民、メディア等との連携による交流促進

交流拠点機能の充実

- 市民の交流拠点機能の充実

○広域的な交流の展開

多様な主体の人的交流を図り、より広域的な活動の展開とそのネットワーク化に向けた取組みを進めます。

さらに、閉鎖性水域を抱える国内外の地域との交流を進め、閉鎖性水域の環境問題に関する情報交換、技術協力、共同研究などを図ります。

(取組み例)

流域における情報共有の促進

- 各情報誌、機関誌の活用
- 伊勢湾白書、伊勢湾辞典の作成
- 伊勢湾ライブラリーの設置
- 伊勢湾ホームページの作成とリンクの充実

伊勢湾の環境保全への連携促進

- 東海3県1市の連携促進
- 伊勢湾流域の河川上下流の住民の連携促進
- 住民、事業者、大学・公設研究機関、地方公共団体、国等の各主体の連携促進

閉鎖性水域を抱える国内外の地域との交流

- 伊勢・志摩海洋国際会議の開催
- EMECS（世界閉鎖性海域環境保全）会議への参加
- 財団法人国際環境技術移転研究センター等の取組みの促進